

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和5年度分)

<県の評価等>

施設所管部名 : 観光部 観光総務課

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重県営サンアリーナ (伊勢市朝熊町字鴨谷4383-4)
指定管理者の名称等	株式会社スコルチャ三重 代表取締役 濱田典保 (伊勢市朝熊町字鴨谷4383-4)
指定の期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	1 サンアリーナの事業の実施に関する業務 2 サンアリーナの施設等の利用の許可等に関する業務 3 サンアリーナの利用料金の収受等に関する業務 4 サンアリーナの施設等の維持管理及び修繕に関する業務 5 前各号に掲げる業務のほか、三重県がサンアリーナの管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R5	R4	R5	R4	
1 管理業務の実施状況	A	A			開設から29年が経過し、経年劣化が進む中、職員が日常的に施設・設備の監視・点検を行い、軽微な不具合や障害に迅速に対応するとともに、設備投資により施設の利用環境の改善・利便性向上を図るなど、適切な施設管理に努めている。
2 施設の利用状況	B	B			令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことにより、行事やイベント等も順次再開される中で、集客力の大きいコンサートが2件開催されたほか、各種スポーツ大会や自主事業の実施等により、施設の平均稼働率、利用人数はいずれも令和4年度実績を上回り、利用拡大のための着実な取組が実績につながっている。 今後も引き続き関係各所との連携や魅力的な自主事業の実施などにより、施設利用のさらなる増加に向けた取組が求められる。
3 成果目標及びその実績	C	C			コロナ禍の影響から回復しつつある状況であったため、6つのうち5つの項目で成果目標を達成することができなかったが、そのうち4つの項目については令和4年度実績を上回っており、3つの項目については目標値に近い成果・実績をあげている。 大型コンサートやプロスポーツ試合の誘致の取組、地域に密着した自主事業の実施など、種々の取組成果が現れてきていると評価できる。成果目標達成に向けて、引き続き種々の取組を進めていく必要がある。

※「評価の項目」の県の評価 :

「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<p>○開設から29年が経過し、経年劣化が進む中、職員が日常的に施設・設備の監視・点検を行い、軽微な不具合や障害に迅速に対応するとともに、設備投資により施設の利用環境の改善・利便性向上を図るなど、適切な施設管理に努めている。</p> <p>○新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことにより、行事やイベント等も順次再開される中で、集客力の大きいコンサートが2件開催されたほか、各種スポーツ大会や自主事業の実施等により、施設の平均稼働率、利用人数はいずれも令和4年度実績を上回り、利用拡大のための着実な取組が実績につながっている。</p> <p>○コロナ禍の影響から回復しつつある状況であり、6つのうち5つの項目で成果目標を達成することができなかったが、そのうち4つの項目については令和4年度実績を上回っており、3つの項目については目標値に近い成果・実績をあげている。利用人数は令和4年度比で約1万3千人増加することができた。</p> <p>○コンサートやプロスポーツ試合の誘致の取組、地域に密着した自主事業の実施など、種々の取組が一定成果として現れてきている。今後の成果目標達成に向けて、関係各所との連携や魅力的な自主事業の実施などを通じて、施設のさらなる利用促進を引き続き着実に進めていく必要がある。</p>
--------	---

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1) 管理業務の実施状況

①三重県営サンアリーナ管理運営事業の実施に関する業務

■新型コロナウイルス感染症への対応

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が2類から5類に変更された為、施設における対応も下記のとおり一部変更した。

<継続事項>

・受付カウンターにビニールパーテーションの設置、入口付近の体温測定器の設置、アルコール手指消毒サービス、スポーツジムの器具拭き取り除菌

<終了事項>

・組み立て式アクリルパーテーションの無料貸出、会議室等利用後の噴霧式除菌作業、更衣室ロッカーの拭き取り除菌作業

■キャッシュレスサービスの導入

令和5年5月にアリーナショップにキャッシュレス決済システム(PayPay)を導入し、利用者の利便性向上を図った。

■券売機の買替

紙幣が20年ぶりに刷新され令和6年7月から発行されることとなった為、券売機の買替需要の集中期に巻き込まれないよう令和6年2月に館内の券売機2台を新紙幣対応機に買替し利用者の利便性向上を図った。

■広報及び利用促進活動

主に次の広報活動を通して施設の利用促進を図った。

・施設独自の月刊広報誌「サンアリーナかわら版」の発行(発行部数 約6,000部/月)

・伊勢地域みっちゃく生活情報誌「イセラ」での情報発信(発行部数 約65,000部/月)

毎月、ボルダリングDAYの開催案内を掲載

・伊勢市が発行している「広報いせ」での情報発信

自主事業開催のお知らせを計17回掲載

・施設ホームページにおける情報発信

計62回の更新を行い積極的に情報発信を行った。

・大会・興行関係者への誘致活動

名古屋オーシャンズに対し、当社自主事業への協力とフットサルリーグのサンアリーナ開催について誘致活動を行う。またコンサート主催者と常にやりとりを行いコンサート誘致活動を行う。

■自主事業の実施

計34件、延べ124回の自主事業を開催し、延べ6,917名の来館者をお迎えした。地元企業や各関係団体などの協力をいただきながら、地域の皆様へスポーツ教室やカルチャー講座に参加して頂く機会を提供するとともに、スポーツ競技の普及・振興に寄与した。

■地域活性化とスポーツツーリズムに関して

・2回のコンサート開催を通じて、地域活性化(宿泊、交通、観光、土産)に大きく寄与した。最近、アーティストや観客がSNSを通してタイムリーに情報発信する機会が多く見られ、特にアーティストが発信する情報は、地域経済へ大きな影響を与えていると考えられています。

・新型コロナウイルス感染症の分類変更を受け、4年振りに「伊勢の森トレイルランニングレース2023」を開催。本レースへのエントリーは、県内はもとより、北は福島県から南は熊本県と全国各地からいただいていることから、本レースを通して三重県の魅力を県内外の方々に発信することが出来た。また本レースは実行委員会方式を採用し、地域の様々な分野の方に参加いただくことで、周辺地域を巻き込みながら地域のつながりを広げていくことができた。

■省エネへの取組

照明設備による電力消費量の一層の削減を図るため、次の取組を行う。

・メインアリーナ2～3階階段照明、メインアリーナ2階ロビー天井照明2箇所、メインアリーナ第2～5器具庫内蛍光灯などの158台の照明をLED化。

・メインアリーナ2階入口A男子・女子・バリアフリートイレや授乳室内照明、サブアリーナ2階観客席前男子・女子・バリアフリートイレの照明を人感センサー化。

②施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

■日常の設備運転に関して

職員による日常巡視を行い、施設・設備・備品の適正な維持管理に努めた。その中で発生した不具合等に迅速に対応した。館内主要設備の日常運転は、中央監視室に常駐する委託先職員と協力し適正に管理を実施した。

■業務用ロボット掃除機の導入

少子高齢化が進み、あらゆる業種において人員確保が困難な状況になりつつある中、サンアリーナにおいても近年、清掃業務に関する人員確保が難しくなってきた為、令和6年1月から業務用ロボット掃除機を導入し、清掃に係る省力化を図った。

■環境整備事業に関して

環境整備事業は、下記17件の事業について計画的に実施し、施設の安全性・利便性の維持向上を図った。

- ・第1回環境整備事業 敷地内外灯更新工事
- ・第2回環境整備事業 熱感知器更新
- ・第3回環境整備事業 電話交換機更新
- ・第4回環境整備事業 浄化槽ルーツブロワー更新工事
- ・第5回環境整備事業 フロアヒンジ取替工事
- ・第6回環境整備事業 レセプション室床絨毯取替
- ・第7回環境整備事業 バasketゴール更新
- ・第8回環境整備事業 スプリンクラーアラーム弁更新
- ・第9回環境整備事業 電気温水器更新
- ・第10回環境整備事業 温水洗浄便座更新工事
- ・第11回環境整備事業 メイン大型映像更新
- ・第12回環境整備事業 メインアリーナ可動席部品交換①
- ・第13回環境整備事業 メインアリーナ可動席部品交換②
- ・第14回環境整備事業 受電設備更新工事
- ・第15回環境整備事業 ボルダリングマット更新(緑色3枚)
- ・第16回環境整備事業 管理棟エントランスホール大理石壁修繕工事
- ・第17回環境整備事業 避雷針修繕工事

③県施策への配慮に関する業務

■車椅子対応センサー式冷水機設置後の利用状況

令和4年度第3回環境整備事業にて更新いただいた車いす対応センサー式冷水機(ウォータークーラー)4台におけるマイボトル給水機能の利用状況及びCO₂(二酸化炭素)の削減効果については下記の通りとなった。

設置場所	給水回数(1回あたり500ml)
1階サブアリーナトレーニング室前	3,205回
2階サブアリーナ 観客席前	767回
3階メインアリーナA入口ロビー	2,268回
4階メインアリーナA自販機横	829回
合計	7,069回

※一般的な500mlペットボトルの製造・廃棄・リサイクルにかかるCO₂(二酸化炭素)排出量は、1本あたり119gであるため、 $119g \times 7,069本 = 841,211g$ のCO₂(二酸化炭素)削減につながった。

【引用先:環境省/リユース可能な飲料容器およびマイカップ・マイボトルの使用に係る環境負荷分析について】

本件は、熱中症への対応策としてはもちろんのこと、県が推進するSDGsへの取組にも貢献できたと考えられる。

■利用許可申請書の改定

令和4年5月19日三重県が施行された「差別を解消し、人権が尊重される三重をつくる条例」に対応するため、三重県営サンアリーナ利用許可申請書に「尚、利用に当たっては不当な差別その他の人権侵害行為を行いません」の一文を加筆し、改訂した。

④情報公開・個人情報保護に関する業務

■令和5年度、情報開示請求はなかった。

⑤その他の業務

■周辺交通・駐車場対応

コンサートが2回開催され、周辺交通・駐車場対応について心配されたが、10代～20代のファンが多いアーティストのコンサートということもあり、公共交通機関の利用も多く、地域住民に迷惑になるような事象もなく終了した。

■人材育成事業

人材育成事業として、下記講習等に職員が参加した。

- ① 東海インボイス制度普及協議会主催「インボイス制度・伝帳法実務対応講座」総務G2名(8月)
- ② SMBCコンサルティング主催「インボイス制度の基本と実務対応セミナー」総務G1名(9月)

(2)施設の利用状況

	【平均稼働率】	(5年度実績)	(目標)	(4年度実績)	【利用人数】	(5年度実績)	(目標)	(4年度実績)
メインアリーナ	57.2%	60.0%	53.5%	アリーナ	122,457人	-	106,616人	
サブアリーナ	69.0%	70.0%	66.3%	会議室等	14,163人	-	14,960人	
会議室等	18.8%	20.0%	14.0%	トレーニング室	4,375人	-	5,209人	
				フィットネス室	3,165人	-	4,078人	
				合計	144,160人	300,000人	130,863人	

2 利用料金の収入の実績

	5年度実績	5年度目標	対目標比	4年度実績	対前年比
利用料金収入	82,319,386円	71,500,000円	115.1%	63,314,542円	130.0%
※利用料金減免等の内訳 割引金額 3,147,859円 減免金額 1,802,171円 特別割引金額 129,520円 特別減免金額 2,699,040円 合計 7,778,590円					

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

収入の部			支出の部		
	R5年度	R4年度		R5年度	R4年度
指定管理料	210,712,000	210,437,000	人件費	68,515,259	67,863,500
利用料金収入	82,319,386	63,314,542	光熱水費	55,422,201	49,566,837
自主事業収入	14,761,846	7,538,600	その他一般管理費	135,718,385	124,213,319
営業外収入	8,646,005	7,658,175	自主事業経費	16,974,394	10,513,070
特別利益	174,209		消費税	10,338,341	9,567,771
合計 (a)	316,613,446	288,948,317	合計 (b)	286,968,580	261,724,497
収支差額 (a)-(b)	29,644,866	27,223,820			

※収支差額は法人税等税引前当期純損益額

※指定管理者が変わった場合、前年度の収支状況には斜線を記入しています。

※参考

利用料金減免額	7,778,590	7,821,679
---------	-----------	-----------

4 成果目標とその実績

【数値目標】	目標値	成果・実績	備考(参考数値)
メインアリーナ平均稼働率	60.0%	57.2%	令和4年度 53.5% 令和3年度 45.1%
サブアリーナ平均稼働率	70.0%	69.0%	令和4年度 66.3% 令和3年度 62.3%
会議室等平均稼働率	20.0%	18.8%	令和4年度 14.0% 令和3年度 11.0%
自主事業イベント件数	30件	34件	・スポット型31件/38回/年間(スポーツ健康振興事業、文化事業等) ・通年型3件/86回/年間(スポーツ教室、ダンススクール、ボルダリングDAY)
全館年間利用件数	500件	494件	令和4年度 510件 令和3年度 387件
アリーナ利用人数	—	122,457人	令和4年度 106,616人 令和3年度 51,393人
会議室等利用人数	—	14,163人	令和4年度 14,960人 令和3年度 10,027人
トレーニング室利用人数	—	4,375人	令和4年度 5,209人 令和3年度 5,384人
フィットネス室利用人数	—	3,165人	令和4年度 4,078人 令和3年度 4,101人
サンアリーナ利用人数合計	300,000人	144,160人	令和4年度 130,863人 令和3年度 70,905人
今後の取組方針	<p>■新型コロナウイルス感染症の影響も薄れ、大型コンサートやスポーツ大会でも1,000名規模の大きな大会が開催されるなど、徐々に元のスタイルに戻ろうとしている。サンアリーナでの大型イベントは、この地域での宿泊や交通、飲食、観光等、地域経済に大きく寄与すると考える。これまでもコンサート開催時には、サンアリーナと近鉄五十鈴川駅間のシャトルバスや、名古屋駅からの直通バスの運行、近鉄電車の増便等、地域の企業の協力を得ながら対応を取ってきたが、これからも引き続き地域の企業と緊密に連携し、対応していく。来場者の増加とともに懸念される駐車場の問題にも、ホームページ等で公共交通機関のご利用を促し、伊勢市フットボールヴィレッジとも連携・調整を行い、大きな問題に発展しないよう取り組む。</p> <p>■来場者数をはじめ収益面でも重要視する大型コンサートやスポーツ系、エンターテインメント系イベント等の興行会社に対し、直接提案活動の取り組みをこれからも継続して行い、運営協力や地域の情報提供や宿泊先仲介等、主催者にとっても開催メリットのある環境づくりを行いながら、積極的な誘致を行う。</p> <p>■自主事業においては、フットサルのフリーグやバスケットボールのBリーグの試合を開催し、国内トップレベルのプレーに触れることができる機会を創出することによって、地域における競技普及に寄与していく。令和5年度、これまで新型コロナの影響により中止していた「伊勢の森トレイルランニングレース」を4年振りに開催したが、令和6年度も安全・安心な大会運営を心掛けて開催し、スポーツツーリズムによる地域の活性化、地域との連携につなげていく。</p> <p>■熱中症対策として、令和元年度にメインアリーナ2箇所、サブアリーナ1箇所に大型の温湿度計を自費にて設置し、利用者への注意喚起に活用しているが、地球温暖化による気温上昇からますます深刻化が懸念されている熱中症に対して、サンアリーナ独自の「熱中症対応手順書」を作成し、これまでより一歩進んだ熱中症対策の取り組みを行う。</p> <p>■今後も引き続きサンアリーナを運営管理をするにあたり、日常の監視、点検、整備を確実に実行し、不良箇所などの早期発見、早期修繕を実践することで、貸館に支障をきたさないよう努め、利用者の快適性の維持を図る。</p>		

5 管理業務に関する自己評価

※指定管理者が変わった場合、前年度の評価は斜線を記入しています。

評価の項目	評価		コメント
	R5	R4	
1 管理業務の実施状況	A	A	<p>■職員による日常点検を行い、施設・設備・備品の適正な維持管理に努めた。その中で発生した不具合や障害に関しても、迅速な対応にあたった。館内主要設備の日常運転は、中央監視室に常駐する委託先職員と協力し適正に管理を実施した。</p> <p>■キャッシュレスの普及が進む中、アリーナショップにおいてもキャッシュレス決済システム(Pay Pay)を導入し利用者の利便性の向上を図った。</p> <p>■新紙幣への対応を遅延なく行うため、館内の券売機2台を新紙幣対応機に買替し利用者の利便性の向上を図った。</p> <p>■業務用ロボット掃除機を導入し、施設の維持管理における省力化を図った。</p> <p>■空調設備に次いでエネルギーを消費する照明器具のLED化を行うことにより、エネルギー使用量を削減する省エネ対策を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メインアリーナ2～3階階段照明(A側2箇所、E側2箇所各3台) ・メインアリーナ2階Cロビー(照明8台、非常灯2箇所)、Gロビー(照明6台、非常灯2箇所) ・メインアリーナ2階回廊の第2・3・4・5器具庫内40W蛍光灯計158台。 <p>合わせてサブアリーナ2階観客席前の男女トイレとバリアフリートイレ、メインアリーナ2階入口の男女トイレとバリアフリートイレ、授乳室内照明の人感センサー化を行った。</p>
2 施設の利用状況	B	B	<p>■新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が2類から5類に変更され、2つのコンサートや、スポーツ大会も有観客で開催されるなど賑わいが戻ってきた。平均稼働率では、メインアリーナ・サブアリーナ・その他会議室全ての施設で前年を上回り、コロナ禍前と比較しても遜色ない数値となった。</p> <p>■大物アーティストの全国ツアー前のゲネプロ(通し稽古)や、2回のコンサートが開催されたことをはじめ、お伊勢さんマラソンや全日本中学生ソフトテニス大会、伊勢志摩労働者福祉協議会の福祉フェスティバルなど大型のスポーツ大会やイベントも開催された。</p>
3 成果目標及びその実績	C	C	<p>■各スポーツ大会は有観客で行われ、コンサート等大規模なイベントもコロナ禍前の水準で実施されるようになって来た。施設の平均稼働率については、前年比メインアリーナで106.9%、サブアリーナで104.0%、その他会議室で134.3%と増加した。利用人数については、合計で前年比110.2%となったが、コロナ禍後の社会の在り方がオンライン化やハイブリット化されるなど大きく変化した為、目標値の達成には至らなかった。</p> <p>■貸館件数は494件と僅かに目標の500件を下回ったが、自主事業は、4年振りに「伊勢の森トレイルランニングレース」を実施するなど、34件の自主イベント事業を実施し、30件の目標を達成した(令和4年度実績30件)。</p>

※評価の項目「1」の評価 :

「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」 → 業務計画を順調に実施している。
「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価 :

「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」 → 当初の目標を達成している。
「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価

■施設の運営管理面においては、キャッシュレス化に対応してキャッシュレス決済システム(PayPay)をアリーナショップに導入し、少子高齢化による人手不足には、業務用ロボット掃除機の導入を行った。また20年ぶりの新紙幣発行に対しては、早期に券売機の買替を行うなど事業環境を取り巻く情勢の変化を適切に捉え、柔軟かつ機敏に対応した。

■新型コロナウイルス感染症の話題もマスク着用の個人判断や、イベントの再開などに話題の中心が移っていく中、4月早々コンサート関連で約2週間にわたりご利用いただいた。大物アーティストのデビュー50周年を記念して開催される、全国16都市でのアリーナツアーに向けた「ゲネプロ(通し稽古)」でのご利用だった。来場者のあるコンサート本番ではないものの、誰もが知る大物アーティストに50周年の記念すべきコンサートの事前準備としてご利用いただいたことは、サンアリーナとして大変誇らしいこととなった。

■5月には、コンサートも開催された。アーティストは若者から絶大な人気を誇る「三代目 J SOUL BROTHERS」で、チケットも激しい争奪戦になり、1日あたりの観客数は約8,300名とこれまでのサンアリーナで行われたコンサート1公演あたりの入場者数では、過去最大級の観客数となった。2月にも「FANTASTICS」のコンサートが行われた。同アーティストは2020年に初の全国アリーナツアーを計画するも、コロナ禍により実現できず、アーティストにもファンにとっても待望のコンサートとなったことに加え、サンアリーナが全国ツアー初日となったこともあり、早朝から多くの人で大変賑わった。コンサートには全国からお客さんが見えるが、中には朝早くから駐車場を確保し、サンアリーナ前のバス停から伊勢神宮への参拝やおかげ横丁を散策等、市内に足を伸ばされてから、コンサート直前にサンアリーナ戻ってくる方も多く見られた。

■スポーツ大会もコロナ禍前のように毎週末何かしらの大会が行われ、有観客で実施されるようになった。県大会規模だけでなく東海大会や全国大会も多く開催されるようになった。夏休み期間中には、学生合宿でのご利用も多くあり、スポーツだけでなくマーチングバンドやよさこいサークルのご利用で、2府(大阪・京都)1県(愛知)からの学生にご利用頂いた。

■コロナ禍以降、定期的で開催されるようになったサンアリーナの新たなご利用方法として、数百名規模で開催される研修会や総会でのご利用が挙げられる。以前は他の会場で開催していたものの、コロナ禍のさなか、参加者の「密を避ける」目的でメインアリーナやサブアリーナで実施したところ、密を避けてゆったりと実施できることや、駐車場の問題等主催者、参加者からも好評で、令和6年度以降も引き続きご予約いただいている。

■自主事業では、年間34件の事業を実施し、地域のスポーツ振興や健康増進に寄与できたと考える。特に4年振りに「伊勢の森トレイルランニングレース」を開催し、選手とその家族やボランティアスタッフ計992名の参加をいただいた。本レースには、北は福島県から南は熊本県と全国から400名のエントリーがあった。参加者からは、レース終了後も「おかげ横丁で食べ歩きもできて伊勢を満喫できた」との評価もいただき、スポーツツーリズムとしての本レースの果たした役割は大きいと考えている。他にも「B.LEAGUE B3ヴィアティン三重ホームゲーム ヴィアティン三重 vs.アースフレンズ東京Z」を自主事業として開催し、この地域でのプロバスケットボールチームの試合観戦の機会を創出した。